

しつぺい太郎たろう

(日本の昔話)

昔、ある村では、毎年秋の祭りの夜に、村のむすめを一人、山の神様にささげなければなりません。した。

旅のおぼうさんが、そのわけをさぐろうと、山のお堂どうにかくれて夜をまちました。すると、化け物たちがあらわれ、おどりながら歌いました。「しっぺい太郎たろうに知らせるな。しっぺい太郎たろうはこわいぞ。」

おぼうさんは、しっぺい太郎たろうをさがして旅をつづけ、やっと遠い村で、しっぺい太郎たろうという強い犬を見つけました。

次の祭りの夜、おぼうさんは、むすめのかわりにしつぺい太郎たろうを箱に入れて、山へ運びました。化け物たちが箱のふたを開けたとたん、しつぺい太郎たろうが飛び出して、化け物たちにかみつきました。

化け物の正体は、年を取った大きなさるでした。それから、村のむすめがさげられることはなくなったということです。村の人たちは、しつぺい太郎たろうに心から感謝かんしゃしました。

1 化け物たちは、だれに知らせるかと歌っていましたか

2 しっぺい太郎とは、何でしたか。

ア
強い犬

イ
おぼうさん

ウ
村のわかもの

3 化け物たちが「しっぺい太郎たろうに知らせるな」と歌ったのは、どうしてだと思いますか。

--	--

4
化け物の正体は、何でしたか。

年を取った大きな
